三鷹市立第　中学校　令和8年度【国語】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○課題を選択できるようにし、主体的に読み深めていく学習活動を行いながら、国語の見方・考え方を働かせる力を育むことができた。 ○タブレット端末を活用した課題を行った。発表活動を通して、学びを深め合うことができるようになった。 ○論理的なつながりを理解することに課題がある。構成の整った文章を書くための基礎力を高める必要がある。	○課題についてのグループ活動を活発に行いながら、読む力を高め合うことができる。 ○文と文のつながりを理解したり、段落同士の関係を適切にとらえることに課題がある。 ○発表の工夫を考え、聞き手の興味を引くことができる。 ○漢字の書き取りに関する理解が不十分である。 ○書字については、字画を整えて丁寧に書こうとする意識が低い。 ○原稿用紙の書き方や構成を意識してわかりやすい文章を書くことに課題がある。	○課題に対する評価規準を明確に示し、グループ活動時も見方考え方を具体的に働かせることができるように指導する。 ◎作文課題を通して、原稿用紙の基本的な書き方、文同士・段落同士のつながりや関係を意識しながら、限られた時間の中で自分の考えや意見をまとめられるように指導する。 ○発表の見本パフォ―マンスを提示するなど、模範を示す。 ◎漢字ドリルを活用した小テストを継続して実施し、復習する機会を設ける。 ○ドリルに書いた書字を確認したり、書写の教科書を活用したりして、書字について指導する。 ◎説明的文章の読解後に、筆者の文章を模範として、構成を意識した文章を書く活動を取り入れる。また、筆者の主張を基に、自分の考えをまとめる機会を設ける。 ○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。
第2学年	○発表の見本パフォーマンスやワークシートの記入例など、ポイントとともに模範を示すことで、活動の意図を理解しながら取り組むことができた。 ○示された評価基準を意識しながら、主体的に見方、考え方を働かせながら課題や活動に取り組むことができた。 ○漢字テストやワークシートに漢字を書く際に誤りが多く、漢字の習得に課題がある。	○課題についてのグループ活動を活発に行いながら、読む力を高め合うことができる。 ○既習事項を同一の領域においては生かすことができる。 ○文と文のつながりを理解したり、段落同士の関係を適切にとらえることに課題がある。 ○漢字の書き取りに関する理解が不十分である。 ○構成を意識してわかりやすい文章を書くことに課題がある。 ○既習事項を他の単元に生かしていくことに課題がある。	○課題に対する評価規準を明確に示し、グループ活動時も見方考え方を具体的に働かせることができるように指導する。 ◎作文課題を通して、文同士・段落同士のつながりや関係を意識しながら、限られた時間の中で自分の考えや意見をまとめられるように指導する。 ○発表の見本パフォ―マンスを提示するなど、模範を示す。 ◎漢字ドリルを活用した小テストを継続して実施し、復習する機会を設ける。 ◎説明的文章の読解後に、筆者の文章を模範として、構成を意識した文章を書く活動を取り入れる。 ○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。 ◎領域が異なる単元同士の関連を意識し、単元が変わる際も既習事項の確認を重視した指導を行う。
第3学年	○タブレットで生成AIを活用し、聞き手にとって分かりやすい説明をする力を育成することができた。 ○文章の中心部分と付加的な部分の区別をして要約する力には課題が残るため、継続して指導を行っていきたい。 ○自分の思いや考えを文章にする力はついてきたが、文章構成や読み手を引き付ける書き方、話し言葉と書き言葉の区別に課題があるため、基礎力を向上させていきたい。	○説明文を読むときに、接続詞や内容に注目して段落を分けたり内容を捉えることができる。しかし、それを要約することは苦手である。 ○意見と考えを区別して文章を書く際に、根拠が薄い考察を書いてしまうことがある。 ○話し言葉と書き言葉の区別や、文末表現、文章構成、作文の書き方など、文章を書く上で基礎的な能力の向上が必要である。 ○字形を整えて書くことが苦手な生徒が多い。 ○タブレットを使ってスライドを作成し、聞き手にとって分かりやすく説明をすることができている。	○記述問題を扱う時間を多く作り、文章を書く上で大切な知識の定着を図る。 ◎自分で書いた文章を推敲したり、クラスメイトと文章を読みあいアドバイスをもらったりして、読み手を意識して文章を書く習慣をつける。また、どのような文章を書けば、読みやすい文章になるのか考える力をつけていく。 ○書写の授業では、字形を意識させ、余白の魅せ方などの空間の使い方について指導する。 ◎漢字テストを定期的に行い、漢字を学習する習慣を身につけさせる。また、授業の中でタブレットで言葉を調べる時間を多く作り、生徒自身が語彙を増やす機会を多く作る。 ○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。